



松尾中学校 PTA 柏台地区育成会の集団回収の様子

1 / 地域で集団回収をする様子 2 / 西根ライオンズクラブの道路清掃活動 3 / リサイクルのために市清掃センターで圧縮処理されたアルミ缶

## 循環型社会を目指す

### ◆循環型社会とは

環境への負荷をできる限り少なくした「最適生産・最適消費・最小廃棄」社会のことを循環型社会といえます。資源採取、生産、流通、消費、廃棄などの全ての社会経済活動の中で、廃棄物の発生を抑え、循環資源の利用に取り組み、新たに採取する資源をできるだけ少なくすることを目的としています。

### ◆日本のごみ排出量

環境省の取りまとめによると、平成30年度、国内のごみ総排出量は427.2万トン、1人1日当たりのごみ排出量は91.8gでした。29年度のごみ総排出量は428.9万トンだったため、0.4%の減となる一方、30年度のリサイクル率は19.9%で、29年度の20.2%から0.3%低くなっています。

### ◆市のごみ総排出量

市のごみ総排出量は、人口減少により微減傾向にあったものの、30年度は1万237トンド、29年度は1万162トンドから75トンの増加となつています。1人当たりの一日の排出量は、28年度から毎年増加しており、30年度は1079gで、全国平均より100g以上も上回っています。

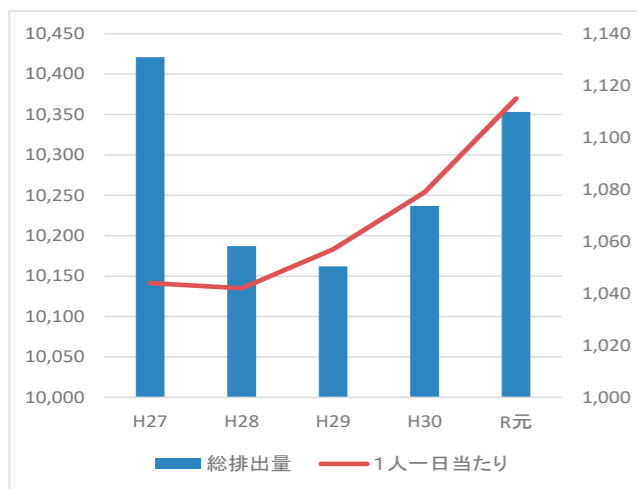
# ごみを正しく出すことは 限りある資源を守ること

大量生産・大量消費型の社会は、私たちの生活を便利にする反面、消費や廃棄速度を増加させ、自然環境に大きな負荷を与えています。こうした社会を背景に、公害や環境問題などが注目され始め、皆さんの中に「使い捨て消費」を見直す思いが浸透し始めています。

消費と生産のバランスがとれた循環型社会を目指し、美しい自然と限りある資源を後世につなぐために、私たち一人一人にできることを考えてみましょう。

■問い合わせ先 市民課環境衛生係(☎・内線1068)

表\_市ごみ排出量・1人当たりごみ排出量の推移



	H27	H28	H29	H30	R元
ごみ総排出量(ト)	10,421	10,187	10,162	10,237	10,353
1人一日当たりのごみ排出量(g)	1,044	1,042	1,057	1,079	1,115

### ◆清掃センターの現状

市清掃センターは、リサイクル法制定前の平成10年度に

生活系ごみの排出量は、盛岡広域管内8市町で2番目に多い量で、生ごみやプラスチック製容器包装(ペットボトルや白色トレイを除く)を可燃ごみとして処理していることや雑紙などの分別が徹底されていないことが主要因と考えられます。

建設されたため、プラスチックごみや生ごみの処理施設がありません。循環型社会を目指す取り組みの一つに、生ごみの資源ごみ化があります。ごみ集積所や収集運搬車両、清掃センターへの堆肥化設備の整備など、多額な経費が必要なほか、製品として安定した品質や販売ルートの確立などの課題があります。今後、プラスチックごみの処理体制と合わせて、考えていく必要があります。



道路脇に不法投棄されたコンクリート



正しく出されなかったペットボトルごみ



川に不法投棄されたごみ



◆重さのほとんどは水

生ごみは、その重さの70%から80%が水分といわれています。令和2年度の市の生ごみ処理量は約1万トン。その内、約千トンが家庭から出る生ごみでした。市清掃センターには生ごみの処理施設がないため、処分方法はほかの燃えるごみと同じく燃やすことしかできません。つまり、8000トンの水が、家庭から清掃センターまで運ばれ、焼却処分されたということになります。

◆食品ロスを調査

食品ロスとは、本来食べられるのに捨てられてしまう食品のことをいいます。市は、家庭から発生する食品ロスの正確な情報を得るため、3年2月に市内で排出された燃えるごみ袋190袋をサンプルとしてピックアップし、666キログラムのごみを調

査しました。調査の結果、重量のうち12%、約70キログラムの食品ロスとともに、調理くず(果物の皮などの生ごみ)が、約115キログラムあることがわかりました。食品の外袋には賞味期限が記載されていても、袋を開封し小分けに保存したときに賞味期限がわからなくなったり、後で食べられないと消費を先延ばしにすることで腐らせてしまったりしていることが原因と考えられます。

◆処分への影響

市清掃センターの焼却炉は、ごみを燃やした際に出るダイオキシンなどの量を減らすため、重油を使って約900℃の高温で焼却しています。生ごみの中の水分は焼却炉の温度を低下させてしまうため、温度を保つには多くの燃料が必要になります。ごみ処理は税金で行わ

れ、2年度は、市民1人当たり約1万9千円の費用負担をし、ごみを処分したことになります。

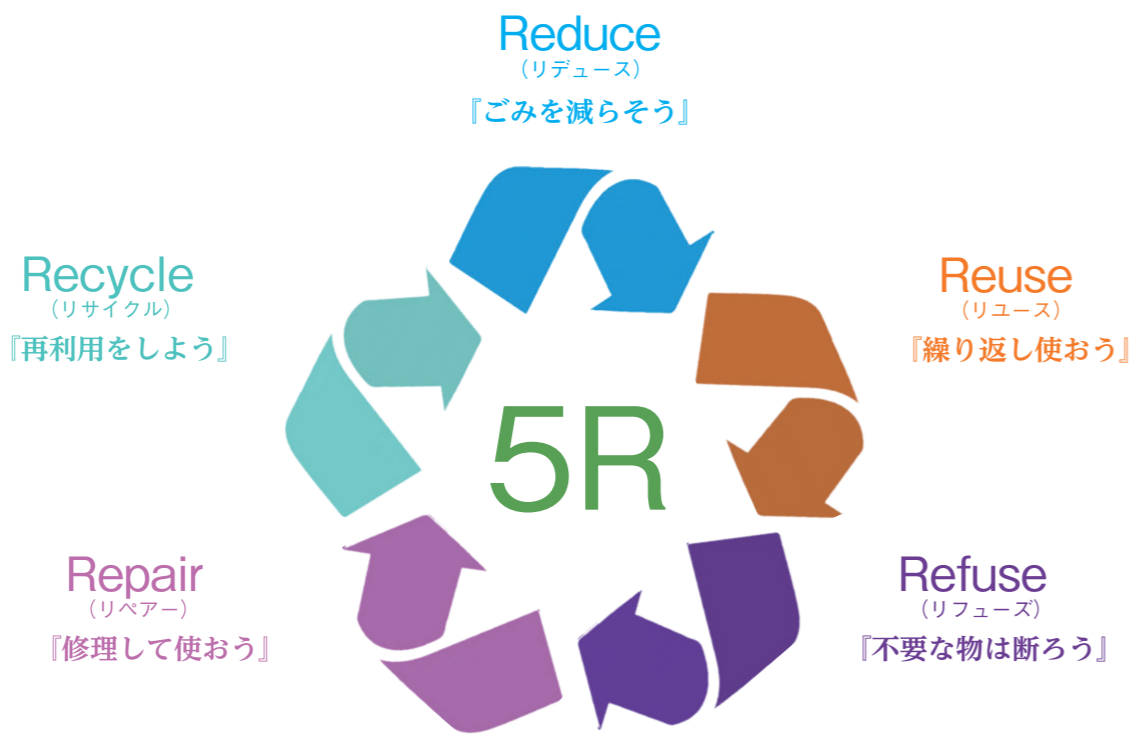
◆水分を減らすひと手間

台所の三角コーナーや排水口に溜まった生ごみは、多くの水を含んでいます。水を含んだ生ごみは悪臭の原因になります。生ごみの水分を減らすために、次のひと手間を加えましょう。

- ▼濡らさない 調理中に出た乾いた生ごみは、濡らさないままごみ袋に入れましょう。
- ▼水を切る 三角コーナーや排水口に設置したネットに溜まった生ごみは、ごみ袋に入れる前にギュッとひと絞りで水分をカットしましょう。
- ▼電動生ごみ処理機やコンポストを使う 電動生ごみ処理機やコンポストを活用することで畑やプランターなどに使える肥料を作ることができます。電動生ごみ処理機は小型なものも多く、コンポストを設置する場所がない人でも簡単に設置できます。

ごみを減らす「5R」

地球に優しい行動として、リデュース(Reduce)、リユース(Reuse)、リサイクル(Recycle)の3つの頭文字を総称した3R(スリーアール)の行動が有名です。市はさらに、リフューズ(Refuse)、リペアー(Repair)の2つのRを加えた5R(ファイブアール)に取り組み、より環境への負荷の少ない循環型社会の実現を目指しています。



◆5Rってどんなこと

- ▼ごみを減らすのに有効な、Rで始まる5つの行動です。それぞれのRをおさらいしてみましょう。
- ▼リデュース(減らす) リユースやリサイクルであっても、その処理には費用とエネルギーが必要で、まずはごみの発生を減らす取り組みをしましょう。
- ▼リユース(繰り返し使う) 使用済みでも、きれいに洗えば使える物や、人にあげるなどほかの目的に使えるものがたくさんあります。できるだけ物を捨てず、何度も使うことでごみを減らしましょう。
- ▼リサイクル(再利用) 使い終わった物を資源に戻し、また製品にすることをいいます。資源にできるものが捨てられたり、汚れたままごみとして出されると、リサイクルはできません。リサイクルできるようにごみを正しく分別しましょう。
- ▼リフューズ(断る) 不要な物や、すぐにごみになること

を予想できるものは、事前に断るなどしてできるだけもらわないようにしましょう。エコバッグなどを使用し、使い捨ての袋や容器などをもらわないようにしましょう。

▼リペアー(修理する) まだ使えるものを直しながら使い続けることは、不要な買い物や買い替えの際のごみを減らすことにつながります。物が壊れた時は、修理してできるだけ長く使いましょう。

◆一番大切なのは

一人一人の心掛け 循環型社会を目指す取り組みにはさまざまな方法があり、今回紹介した方法は、ほんの一例にすぎません。大切なのは皆さんの「物を大切にする気持ち」。日常生活の中でほんの少しだけ環境のこと、ごみを減らすことを考えて行動してみませんか。何をしたらいいか、自分に何ができるか考え行動に移すその一歩が、循環型社会の実現と誰かの笑顔につながるかもしれません。



1/食べきらずに捨てられた食品の一部 2/調理くずの生ごみの一部 3/ピックアップしたごみの重量計測 4/一つ一つ手作業で袋を開封し、生ごみを分別 5/調理されないまま廃棄された食品